

13. 県立鹿島灘高校・結城第二高校におけるキャンパスエイド活動

連絡先

茨城教育庁高校教育課・茨城県立鹿島灘高校・茨城県立結城第二高校

活動メンバー

大学院学校臨床心理専修大学院生 9名

学部生 10名

養護教諭養成課程 1名

教育学部人間環境課程心理コース 1名

人文社会科学部人間文化学科 8名

指導教員 2名

正保春彦・地井和也（大学院学校臨床心理専攻）

活動の内容・目的

単位制・三部制のフレックススクールとして平成17年度に開校した茨城県立鹿島灘高校および平成20年度に開校した茨城県立結城第二高校へ、生徒たちの心のケアの一端を担うことを目的とするキャンパスエイドとして大学院生・学部生を派遣する。

エイドの活動内容は以下の4点である。

- (1) 生徒たちに対する気軽な話し相手としての役割を通じた支援活動を行う。
- (2) 「心理学」「道徳」授業時に補助者として参加する。
- (3) 学校カウンセリングに関わる校内研修会・協議会へ参加する。
- (4) 活動内容について記入した「キャンパスエイド活動日誌」を毎回提出する。

今年度の活動

鹿島灘高校では前期4名、後期5名が、結城第二高校では前期5名、後期5名がキャンパスエイドとして活動した。エイドは基本的に月曜日～金曜日を1名ずつ分担して担当するが、活動できる曜日に偏りがあり、鹿島灘高校ではエイドが活動することができない曜日があった。また今年度は8名の人文社会科学部の学部生も活動に加わった。

毎月最終木曜日放課後に大学内でミーティングを持ち、1か月のキャンパスエイド活動を振り返った。各自の活動を報告し、情報の共有を図ると共に、活動上困難を感じるなどについて検討を行った。

また、県内の他のフレックス高校を訪問してエイド活動を行う機会を持ち、他校の状況を知ることができた。

活動の成果・意義

フレックス高校に在学する生徒は、小・中学校時代に不登校やいじめを経験していたり、発達障碍（またはその傾向）を持っていることも多く、対人関係上の困難を抱えていることが多い。加えて、昨今は生活上の困難を抱えていることも少なくない。そのような生徒たちに対し、少し年上の存在として話をすることにより、心の支援を行うことができた。また、教室に居場所がなくてお昼休みや空き時間に居場所を求めて来室する生徒などに、居場所とコミュニケーションの機会を与えることができた。